

令和5年度 事業報告書

CONTENTS

1	災害救護活動	P 2
2	国際活動	P11
3	医療事業	P13
4	看護師養成事業	P15
5	血液事業	P16
6	講習普及事業	P17
7	赤十字ボランティア	P19
8	青少年赤十字 (JRC)	P20
9	赤十字思想の普及 広報	P21
10	会員と活動資金	P22
11	令和5年度一般会計歳入歳出決算概要	P24
	参考資料 名簿	P25

1

災害救護活動

日本赤十字社は、日本赤十字社法及び災害対策基本法や災害救助法に定める災害救護団体として災害救護活動を実施しています。

●災害救護活動

令和6年能登半島地震では広島県支部よりコーディネートチームや救護班、こころのケア班等を派遣し救護活動を実施しました。また、当支部は第5ブロックの代表支部として、ブロック内の救護班等の派遣調整を行いました。

中四国ブロック血液センターは、令和6年2月6日、赤血球製剤80単位(A型20u、O型20u、B型30u、AB型10u)を東海北陸ブロック血液センターに支援しました。

■令和6年能登半島地震災害対応

(単位:人)

区 分	班数	活動実施者数	活動延べ人数
コーディネートチーム	4班	14	71
救護班	5班	45	162
こころのケア班	2班	3	15
病院等業務支援(看護師派遣)	2班	3	18
合計	13班	61	266



石川県の道路状況等を確認している様子



コーディネートチーム出発前の物品確認の様子



避難所で弾性ストッキングを配布している様子



輪島市役所にてハンドケアを行っている様子

●救護班等の編成

災害が発生し、医療救護の必要が生じた際に直ちに活動ができるよう、県内3カ所の赤十字病院に救護班10班を常備しています。

救護班は、1班あたり医師（1人）・看護師長（1人）・看護師（2人）・薬剤師（1人）・主事（2人）を基準として編成し、災害の規模に応じて救護員を増減し被災地へ派遣しています。

これに加え、災害対策本部要員（47人）、血液供給要員（3人）を登録し、非常時の様々な状況に対応できる体制とし、そのほか日赤災害医療コーディネートチームを4チーム（26人）編成しています。

救護員に対し救護員研修会実施要綱に基づき系統立てた研修会を開催し、継続的に知識・技術の研鑽を図っているほか、県内各赤十字病院に在籍している災害派遣医療チーム（DMAT）隊員が、急性期の災害に即応すべく備えています。

■救護班等編成状況 (単位：人)

施設名	救護班数	医師	看護師長	看護師	薬剤師	主事	合計
広島赤十字・原爆病院	6班	6	6	12	6	12	42
庄原赤十字病院	2班	2	2	4	2	4	14
三原赤十字病院	2班	2	2	4	2	4	14
合計	10班	10	10	20	10	20	70

■災害対策本部要員、血液供給要員登録状況 (単位：人)

施設名	災害対策本部要員	血液供給要員	合計
広島県支部	19	—	19
広島赤十字・原爆病院	14	—	14
庄原赤十字病院	3	—	3
三原赤十字病院	6	—	6
広島県赤十字血液センター	5	3	8
合計	47	3	50

■日赤災害医療コーディネートチーム編成状況 (単位：人)

施設名	医師	看護師	薬剤師	事務職員	合計
広島赤十字・原爆病院	5	4	1	4	14
庄原赤十字病院	1	1	0	1	3
三原赤十字病院	2	1	0	3	6
広島県赤十字血液センター	0	0	0	2	2
広島県支部	0	0	0	2	2
合計	8	6	1	12	27

■災害派遣医療チーム（DMAT）隊員登録状況

（単位：人）

施設名	チーム数	医師	看護師	業務調整員	合計
広島赤十字・原爆病院	2チーム	4	4	2	10
庄原赤十字病院	1チーム	1	3	2	6
三原赤十字病院	1チーム	1	4	3	8
合計	4チーム	6	11	8	24



広島赤十字・原爆病院



庄原赤十字病院

●救護訓練・研修会

迅速・的確な災害救護活動を実施できるよう、広島県内で行われた救助合同訓練に参加し、大規模災害の発生に備え、関係機関との連携強化、対処能力の向上を図りました。

■救護訓練参加状況

名称	日程	場所	参加者（人）
高知県総合防災訓練	令和5年5月27日・28日	高知県	10
広島市総合防災訓練	令和5年8月30日	広島市	22
広島県総合防災訓練・石油コンビナート等総合防災訓練	令和5年10月7日	江田島市	15
中国・四国各県支部合同災害救護訓練	令和5年11月10日・11日	愛媛県	7
旅客船多数傷病者救助合同訓練	令和5年11月12日	三原市	13



高知県総合防災訓練



広島県総合防災訓練

救護員やボランティア等のスキルアップを図るため、各種研修会の実施や他団体主催の研修会に参加しました。



救護員基礎研修会（広島赤十字・原爆病院主催）



救護員実践研修会（支部主催）

■救護研修会実施・参加状況

名称	日程	場所	参加者（人）
救護員基礎研修会	令和5年6月15日	広島赤十字・原爆病院	33
救護員基礎研修会	令和5年6月23日	庄原赤十字病院	18
救護員主事研修会	令和5年7月28日	広島県支部	20
救護班実践研修会	令和5年9月21日・22日	広島県支部	42
日赤災害医療コーディネーター研修会	令和5年7月7日・8日	本社	1
日赤災害医療コーディネーター研修会	令和5年9月23日・24日	本社	2
原子力災害対応基礎研修会	令和5年12月4日・5日	徳島県	10
こころのケア指導者養成研修会	令和5年10月11日・12日	本社	1
こころのケア要員研修会	令和5年8月5日	三原赤十字病院	7
こころのケア要員研修会	令和6年1月30日	広島赤十字・原爆病院	37
I C S研修	令和5年4月29日	広島大学	2

●被災者の支援

災害（火災等）に備え、毛布や緊急セット等の救援物資を備蓄しており、要請に応じて被災者へ配布しました。

■救援物資備蓄状況

備蓄場所	毛布（枚）	緊急セット（セット）	バスタオル（枚）	安眠セット（セット）	タオルケット（枚）	寝衣（着）	
						大人	子供
広島県支部	3,527	3,044	268	445	559	58	265
庄原赤十字病院	550	300	—	—	—	—	—
三原赤十字病院	900	246	—	—	—	—	—
日本赤十字広島看護大学	996	—	—	—	—	—	—
地区・分区	556	203	448	306	—	246	155
合計	6,529	3,793	716	751	559	304	415



災害救助物資保管倉庫（庄原赤十字病院）



災害救助物資保管倉庫（三原赤十字病院）

■救援物資配布状況（県内で発生した災害（火災等）の被災者へ地区分区を通じ救援物資を配布）

被災世帯数	被災者数（人）	毛布（枚）	緊急セット（セット）	バスタオル（枚）	安眠セット（セット）	タオルケット（枚）	寝衣（着）	
							大人	子供
44	92	85	40	84	76	0	76	5



緊急セット



安眠セット

●災害救援用資器材等の整備

日本赤十字社では、災害時において電気・水道等のライフラインが停止した場合に備え、必要とする電気・燃料・食糧等の物資はすべて自分たちで用意する自己完結型の救護活動を原則としており、各種の資器材を平時から備えています。

また、災害時に迅速かつ多様な活動ができるよう災害救援車両を各種整備しています。

令和5年度に協和鉱業株式会社様からご寄贈いただいた災害救援車両は、庄原赤十字病院に配備しました。この車両は、災害時の迅速な救護活動に備えるとともに、平時には地域医療の支援のため患者搬送用車両として活躍します。

■主要救護用資器材等保有状況

名称		数量	名称	数量	名称	数量
業務用無線 (150MHz)	基地局	4局	トリアージテント	3張	担架	70台
	移動局	48局	パイプテント	12張	発電機	6台
業務用無線 (400MHz)	基地局	1局	ワンタッチテント	3張	投光機 (ハルソク・LED)	4台
	移動局	27局	エアーテント	5張	簡易トイレ	25個
アマチュア無線局		1局	ドラッシュテント	3張	医療セット	4セット
衛星携帯電話		7台	リフトテント	1張	折畳寝台	90台
折りたたみ式リヤカー		1台	炊出し釜	3個		



支部が所有するテント群



災害救援車 (支部)

■災害救援車両

名称	数量 (台)
通信指令車	1
d E R U (国内型緊急対応ユニット)	1
救急車	4
災害救援車 (赤十字施設)	9



車両等の引き渡し式（贈 協和鉱業株式会社）



庄原赤十字病院に整備された災害救援車両

●地区・分区における災害救援車両や資器材の整備

地区・分区内での災害救護活動に使用するため、の災害救援車両を1台更新整備しました。

- ・福山市地区

■災害救援車両及び資器材整備状況

地区・分区名		車両 (台)	テント (張)	炊出し 釜 (個)	地区・分区名	車両 (台)	テント (張)	炊出し釜 (個)
広島市	中区	1	—	1	大竹市	1	2	3
	東区	1	1	1	東広島市	3	11	2
	南区	1	1	1	廿日市市	2	8	2
	西区	1	1	1	安芸高田市	1	19	2
	安佐南区	—	—	1	江田島市	1	6	1
	安佐北区	1	3	1	海田町	1	5	3
	安芸区	1	2	2	府中町	—	2	3
	佐伯区	1	3	3	熊野町	—	4	1
呉市	1	13	1	坂町	1	3	1	
竹原市	1	2	1	安芸太田町	—	6	2	
三原市	1	13	1	北広島町	2	7	1	
尾道市	1	10	6	大崎上島町	1	7	1	
福山市	1	9	4	世羅町	1	6	2	
府中市	1	2	1	神石高原町	—	6	—	
三次市	1	20	4	合計	29	183	54	
庄原市	1	11	1					

●義援金・救援金の受付

日本赤十字社では、災害や紛争、病気に苦しむ方々の支援を行うため、国内義援金や海外救援金を受け付けています。

国内義援金は、被災都道府県に設置される義援金配分委員会へ全額をお送りし、同委員会で定める配分基準に従って、市区町村等の自治体へ配分され、被災地の方々の生活支援に役立てられます。また、海外救援金は、被災国の赤十字社が実施する被災者支援活動に使われます。令和5年度における受付状況は以下のとおりです。

■義援金受付状況

名称	件数 (件)	金額 (円)
令和5年5月能登地方地震 災害義援金	46	489,487
令和5年台風第2号等大雨災害義援金	34	1,058,253
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	69	379,522
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	117	1,697,422
令和5年台風第6号災害義援金	29	84,770
令和5年台風13号災害義援金	44	719,362
令和6年能登半島地震災害義援金	1,839	117,222,031
合計	2,178	121,650,847

■海外救援金受付状況

名称	件数 (件)	金額 (円)
中東人道危機救援金	6	7,880
バングラデシュ南部避難民救援金	5	6,570
アフガニスタン人道危機救援金	2	1,200
ウクライナ人道危機救援金	123	1,885,869
2023年トルコ・シリア地震救援金	243	1,238,222
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	26	739,074
2023年モロッコ地震救援金	19	157,432
2023年リビア洪水救援金	14	132,459
2023年アフガニスタン地震救援金	6	24,643
イスラエル・ガザ人道危機救援金	26	300,949
合計	470	4,494,298

●防災教育事業の実施

① 赤十字防災セミナーの開催

日本赤十字社防災教育事業として、赤十字防災セミナーは地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高めることを目的として実施しています。

また、一部のセミナーについては、新型コロナウイルス感染症への感染防止の観点からWEBにより開催しました。

■ 赤十字防災セミナー実施状況

カリキュラム	内容	回数 (回)	受講者 (人)
災害への備え (講義)	災害・防災についての考え方や地震・大雨災害など災害別の想定被害等から平時の備えの重要性を理解する。	13	445
災害エスノ グラフィ	大規模災害の被災者の経験談を通じて、災害を迫体験することで被災の具体的なイメージを理解する。	5	68
災害図上訓練 (DIG)	地域の防災マップの作成を通じて、防災上の資源や危険箇所等を把握・理解し、個人や地域での防災対策の実施につなげる。	1	21
家具安全対策 (KAG)	自宅(部屋)の平面図を描くゲームを通じて、自身で起こる被害や危険な場所を把握し、家具の安全対策の必要性を理解する。	4	132
ひなんじょたい けん	避難所を作るカードゲームを通じて、大地震後の避難所生活の一部を体験し、「被災者の目線で心がける要点」を理解する。	1	5



災害への備え(講義)



災害図上訓練(DIG)



ひなんじょたいけん



家具安全対策ゲーム(KAG)

② 防災教育事業指導者養成研修の開催

県内で防災や減災に関する知識を普及する指導者の育成が必要であることから、「赤十字防災セミナー」を運営する上で、十分な知識・技術を有することはもちろんのこと、事業運営に自発的・積極的に協力いただけることに主眼を置き、指導者養成研修を開催し、6名の指導者を養成しました。

日本赤十字社は、国際赤十字の一員として世界 191 の国と地域の赤十字・赤新月社やジュネーブにある赤十字の国際機関とともに緊急救援・復興支援や開発協力等を実施しています。

●国際救援・開発協力要員の登録状況

日本赤十字社では、海外で発生した災害や保健衛生事業に従事するための要員を「国際救援・開発協力要員（以下、「要員」という。）」として常時登録しています。

■県内登録状況

(単位：人)

施設名	医師	看護師	薬剤師	事務	合計
日本赤十字社広島県支部	0	0	0	3	3
広島赤十字・原爆病院	2	1	1	2	6
三原赤十字病院	0	0	0	1	1
広島県赤十字血液センター	0	0	0	1	1
合計	2	1	1	7	11

●国際活動参加事業

第5ブロック及び当支部は、国際赤十字の一員として、本社が行う国際活動に係る職員の派遣、国際支援事業への財政的支援を行っています。令和5年度には、次の国際支援事業への要員派遣、財政的支援を行いました。

① パレスチナ赤新月社医療支援事業

日本赤十字社は2015年から中東地域で続く紛争やそれに起因する人道危機の被災者への支援を重点支援事業として取り組んでおり、その一環として2018年4月からはパレスチナ赤新月社と協力し、レバノンにおいて同社が運営する医療施設への支援活動を展開しています。広島赤十字・原爆病院から看護師1名を派遣し、医療施設の支援を行いました。



② アジア・大洋州 給水・衛生災害対応キット整備事業（第5ブロック共同参加）

アジア・大洋州地域の災害多発国赤十字社が、給水・衛生災害対応キットを計画的に配備し、災害時に効果的に給水や衛生活動を展開できるよう各国赤十字社のスタッフ・ボランティアの研修と人材育成のための事業資金支援を行いました。



③ ラオス救急法普及支援事業

ラオス人民民主共和国は、医療従事者が不足しており、医療水準も近隣諸国と比べて極めて低い状況にあることから、救急法普及体制を強化し、地域社会への救急法講習の普及を推進するための事業資金支援を行いました。



④ バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業

バングラデシュ南部の避難民にキャンプに暮らす避難民及び地元コミュニティの健康状況が一次医療及び地域保健を通じて改善されるよう、必要に応じ薬剤師、災害対応要員、技術要員の派遣等、地元赤十字社の対応能力強化に寄与するための事業資金支援を行いました。



● 「NHK海外たすけあい」(第41回)キャンペーン

「NHK海外たすけあい」キャンペーンは世界各地の紛争や自然災害、病気などに苦しむ人々を救うために、日本赤十字社が昭和58年から毎年12月にNHKと共同で実施しています。

支部では、広島県青年赤十字奉仕団が中心となり、青少年赤十字加盟校の生徒達とともに街頭募金活動を実施し、寄付しました。

■ 受付状況

名称	受付期間	件数(件)	金額(円)
NHK 海外たすけあいキャンペーン	12月 1日～25日	2,304	17,125,782



オープニングセレモニーでは園児たちが募金を持参

3 医療事業

県内には広島赤十字・原爆病院、庄原赤十字病院、三原赤十字病院の3つの赤十字病院があり、いずれも地域の中核病院としての役割を果たしています。

近年、医療事業においては医療費削減や医師不足等、取り巻く環境は非常に厳しい状況となっていますが、各病院は地域の特性に応じたサービスと良質な医療の提供に重点をおいた事業を展開しています。

●広島赤十字・原爆病院

地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院などの指定を受け、地域の基幹病院としての役割を担っています。近年、ロボット手術やがんゲノム医療の導入や抗がん剤混合調製ロボットを整備するなど、高度医療の提供に努めています。



広島赤十字・原爆病院

診療科目 (34科)	内科、肝臓内科、腎臓内科、血液内科、内分泌・代謝内科、脳神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、精神科、外科、消化器外科、血管外科、乳腺外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、リウマチ科、産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、緩和ケア内科、救急科、歯科口腔外科、病理診断科
---------------	---

(単位：人)

病床数		職員				入院患者		外来患者	
許可	実働	医師	看護要員	その他	計	延数	一日平均	延数	一日平均
565床	557床	159	650	419	1,228	184,702	504.7	330,218	1,364.5

●庄原赤十字病院

庄原赤十字病院は、広島県北部の中山間地域において急性期から慢性期までの医療を担う中核病院です。へき地巡回診療や訪問診療、訪問看護などの在宅医療にも力を入れています。



庄原赤十字病院

診療科目 (22科)	内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、腎臓内科、脳神経外科、小児科、外科、透析外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、神経内科、漢方・疼痛緩和科、呼吸器内科、血液内科
---------------	--

(単位：人)

病床数		職員（人）				入院患者（人）		外来患者（人）	
許可	実働	医師	看護要員	その他	計	延数	一日平均	延数	一日平均
300床	298床	43	230	130	403	74,447	203.4	114,349	472.5

●三原赤十字病院

三原赤十字病院は、医師の増員により消化器内科と外科を統合し、総合的に消化器疾患に対応できる消化器センターを開設するとともに整形外科の充実により、手術からリハビリ・在宅診療までのシームレス化を図りました。また、新設された歯科口腔外科及び下肢静脈瘤、睡眠時無呼吸症候群の専門外来などから必要とされる医療を推進するほか、近隣医療機関との連携を一層深め、地域医療に密着した医療の提供を行っています。



三原赤十字病院

診療科目 (21科)	内科、呼吸器内科、肝臓内科、循環器内科、消化器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リウマチ科、リハビリテーション科、緩和ケア外科、歯科口腔外科
---------------	---

(単位：人)

病床数		職員				入院患者		外来患者	
許可	実働	医師	看護要員	その他	計	延数	一日平均	延数	一日平均
232床	184床	31	170	105	306	57,198	156.3	108,693	408.6

4

看護師等養成事業

日本赤十字広島看護大学は、赤十字の中国・四国ブロックにおける拠点校として、国内外の保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護や国際救援、教育・研究現場等様々な場において活躍できる看護師等の養成を行っています。



日本赤十字広島看護大学

●在籍状況

赤十字の人道の理念を基調とした教育と人々の命と権利を尊重することを基本とした「ヒューマンケアリング」の精神のもとに、豊かな人間性と幅広い教養を身につけた人材育成に努めています。

■学年別在籍状況 ※令和5年度末現在 (単位：人)

1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	大学院	合計
130	140	122	130	30	552

●進路状況

卒業後は、看護師・助産師・保健師などの国家資格を活かし、各地の赤十字病院をはじめとする医療施設や、都道府県や市町に就職し活躍しています。

■学部卒業生進路状況 (単位：人)

卒業生	就職				進学	その他
	赤十字の医療施設	国公立系の医療施設	公的医療施設	その他の病院等		
128	69	10	21	19	4	5



基礎看護学演習



災害看護学演習

5 血液事業

新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、血液センターでは十分な感染予防対策や献血会場の安全性の確保対策を講じたうえで、献血協力団体等の皆さまに、献血実施の安全性及び国民の生命を支える献血の必要性についてご理解をいただけてきました。

また「新しい生活様式」を踏まえ、SNSを活用したタイムリーな広報を行うとともに献血WEB会員を募集し協力の要請や献血会場における混雑・密集回避のための献血予約の推進を行っています。

●献血実績

(単位：人)

200mL 献血	400mL 献血	成分献血	合計
871	75,600	41,138	117,609

●供給実績

(単位：本)

200mL 由来		400mL 由来		成分由来		合計
赤血球製剤	血漿製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	血漿製剤	
890	68	72,128	7,607	26,993	3,988	111,674

●献血思想の普及

① 「愛の血液助け合い運動」

毎年7月の1ヶ月間、厚生労働省・各都道府県及び日本赤十字社が主催して全国一斉に「愛の血液助け合い運動」を実施しています。

この運動の一環として、「令和5年度広島県献血推進功労者等表彰伝達式―献血感謝のつどい―」を令和5年7月27日(木)に開催し、献血運動の推進に関し積極的に協力し、他の模範となる実績を示した36団体と17名の個人に対し献血功労者表彰・感謝状を贈呈しました。

また、県内の中学生・高校生を対象に献血について関心を深めてもらうことを目的に献血推進ポスターを募集し、応募のあった献血推進ポスター197点の中から入選作品16点を表彰しました。



第24回広島県献血推進ポスター最優秀賞
広島県立高揚東高等学校 山田初花さんの作品

② 「はたちの献血」キャンペーン

1月1日から2月末日までの2ヶ月間、「はたち」の若者を中心に、広く国民に献血への理解と協力を求めることを目的に「はたちの献血」キャンペーンを実施しました。

6

講習普及事業

地域住民の健康と安全を守る救急法等の講習を一般の方に広く普及するため、地域をはじめ企業や学校等に対して実施しました。

●救急法

病気、けがや災害から自分自身を守るとともに、けが人や急病人を正しく救助して医師又は救急隊員等に引き継ぐまでの救命手当（心肺蘇生、AEDによる除細動、異物除去等）や応急手当（止血の仕方、三角巾の使い方、骨折の固定方法等）の知識や技術を普及することを目的とした講習を支部、地域や職場、学校等で実施しました。



心肺蘇生法の実技実習

■講習実施状況（救急法）

（単位：人）

名称	回数	受講者	修了者	認定者
基礎講習	95回	1,964	1,950	—
救急員養成講習	32回	754	740	737
短期講習	334回	11,412	—	—
合計	461回	14,130	2,690	737

●水上安全法

水の事故から生命を守り、泳ぎの基本と自己保全、溺者の救助、救命・応急手当等、水難救助に関する総合的な知識と技術を普及することを目的とした講習を支部、地域や職場、学校等で実施しました。



着衣泳の様子

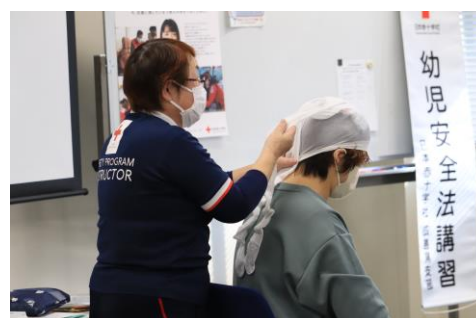
■講習実施状況（水上安全法）

（単位：人）

名称	回数	受講者	認定者
救助員養成講習Ⅰ	9回	78	78
救助員養成講習Ⅱ	3回	16	16
短期講習	49回	1,685	—
合計	61回	1,781	94

●幼児安全法

子どもが家庭や地域で健やかに育っていくよう、子どもの成長・発達に伴う事故の予防と急病の対応及び万一に備えての救命・応急手当の知識や技術を普及することを目的とした講習を支部、地域や職場、保育所等で実施しました。



ストッキングを使った応急手当

■講習実施状況（幼児安全法）

（単位：人）

名称	回数	受講者	認定者
支援員養成講習	6回	70	66
短期講習	290回	6,409	—
合計	296回	6,479	66

●健康生活支援講習

高齢期を健やかに事故なく過ごすために必要な知識・技術、高齢者自立支援に必要な介護技術等を普及することを目的とした講習を支部、地域等で実施しました。

また、避難所における不自由な生活から高齢者を守るために知っておきたい知識や支援技術について学ぶ災害時高齢者生活支援講習を実施しました。



健康生活支援講習

■講習実施状況（健康生活支援講習）

（単位：人）

名称	回数	受講者	修了者	認定者
支援員養成講習	4回	19	4	12
災害時高齢者生活支援講習	18回	578	—	—
短期講習	13回	277	—	—
合計	35回	874	4	12

7 赤十字ボランティア

赤十字ボランティアには、グループで活動しているボランティアと個人で活動しているボランティアがいます。グループで活動しているボランティアは、市区町村ごとに組織された「地域赤十字奉仕団」、おおむね18～30歳の社会人や学生などで組織された「青年赤十字奉仕団」、さまざまな専門技術や職業を活かして活動する「特殊赤十字奉仕団」の3つの種類があります。県内に合わせて33団体組織されています。

個人で活動しているボランティアは、日本赤十字社の本社、各都道府県支部、赤十字病院、赤十字血液センター、献血ルーム、社会福祉施設などの各施設で活動しています。

赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神に基づき、明るく住みよい社会を築き上げていくために様々なボランティア活動を展開しています。

令和5年度は、各種奉仕団の連携強化や活動の充実を図るため、委員会や研修会等を実施しました。

■委員会・研修会等実施状況

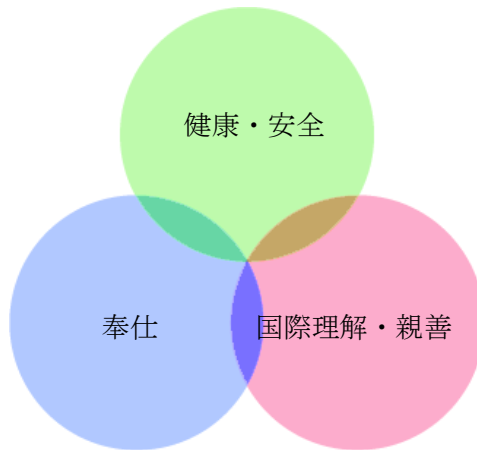
名称	日程	場所	参加者
赤十字奉仕団中央委員会	6月1日～2日	本社	1人
広島県赤十字奉仕団委員長会議	6月13日	広島県支部	20人
	1月29日	広島県支部	22人
赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会	7月22日～23日	広島県支部	2人
赤十字ボランティア・リーダー研修会	8月26日～28日	本社	2人
第5ブロック赤十字奉仕団研修会	11月14日～15日	岡山県支部	2人



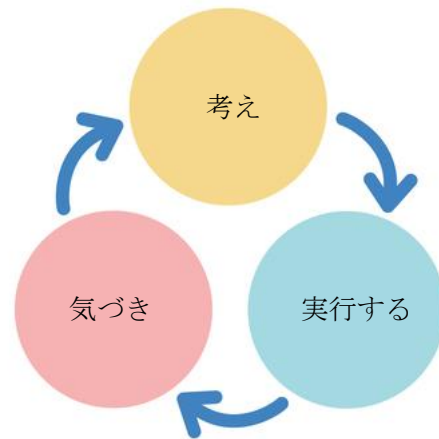
赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会の様子

青少年赤十字は、赤十字の基本理念である「人道」に基づき、「やさしさ」や「思いやり」を行動に移せる青少年の育成を、学校教育の中で実践することを目的とし、3つの実践目標と3つの態度目標を掲げています。

青少年赤十字の実践目標



青少年赤十字の態度目標



■ 青少年赤十字加盟状況

区分	幼稚園・保育園	小学校	中学校	高等学校	義務教育	中等教育	特別支援	計
学校数	28	88	79	40	3	1	4	243
メンバー数	3,688	33,493	27,006	10,458	409	683	532	76,269



加盟登録式の様子



ネパール青少年赤十字との国際交流会の様子

赤十字の理念や活動について県民の理解を深めるため、活動資金の使途について一人でも多くの方々にご理解いただけるよう、広報活動を展開しました。

また、赤十字の活動を広く伝えるため、テレビやラジオなどに取り上げられるように報道機関への積極的なプレスリリースを行うとともに、SNSを活用し、より幅広い世代に向けた情報発信の推進に努めました。

●広報資材の発行・掲出

- ・赤十字 NEWS の発行
- ・活動資金募集用パンフレット
- ・活動資金募集用チラシの作成
- ・会員募集の手引きの作成
- ・ダイレクトメール用活動資金募集用パンフレット
- ・商工会議所所報へのチラシ折込み
- ・遺贈・相続財産寄付パンフレット
- ・CROSSCOMBOOK の発行
- ・アニュアルレポート
- ・赤十字サポーター加入のご案内



●メディア広報

- ・CM放送（テレビ・ケーブルテレビ・ラジオ）
- ・パブリシティ放送（夏には「水の事故防止」
冬には国際活動について紹介。）
- ・能登半島地震災害の活動報道
- ・SNS（Facebook、Instagram、Twitter）
を活用した情報発信



●イベント出展

過去の災害を通じて防災の大切さを幅広い世代に再認識してもらうため、プロ野球の試合中のマツダスタジアムや「いま動こう！みんなで防災フェス」（広島テレビ主催）にブースを出展し、赤十字の講習、ミニ防災セミナー、救護服の試着撮影会、災害救護活動のパネル・災害救援物資の展示などを行いました。



日本赤十字社広島県支部が行う活動は、赤十字会員及び赤十字活動に賛同する方々からお寄せいただく活動資金（会費と寄付）で支えられています。

活動資金については、近年、クレジットカードやAmazonPayなどインターネットによる新たな募集方法も推進しています。

■地域別活動資金募集状況

（単位：円）

区分	一般	法人	合計
各地区・分区計	204,249,922	1,767,317	206,017,239
広島県支部計	61,453,004	48,573,467	110,026,471
合計	265,702,926	50,340,784	316,043,710

●企業とのパートナーシップ

広島県支部独自の取り組みとして、継続して活動資金をご支援いただく県内の法人・団体等を「赤十字サポーター」として認定し、CSRや社会貢献活動におけるパートナーシップを確立して会員増強を図っています。

●全国赤十字大会

毎年5月に開催される日本赤十字社名誉総裁皇后陛下のご臨席の全国赤十字大会が、5月18日（木）、明治神宮会館で開催され、広島県内の活動資金の支援者および奉仕団委員長等25名が参加しました。

●広島県赤十字有功会

①令和5年度広島県赤十字有功会総会の開催

7月19日（水）にANAクラウンプラザホテル広島で開催され、表彰受章者や会員など計65名が参加しました。また、総会に先立ち「日本赤十字社有功章等伝達式」を開催し、山根健嗣副支部長（広島県副知事）から、社長感謝状、銀色有功章、金色有功章及び厚生労働大臣感謝状を授与しました。

厚生労働大臣感謝状／法人 1社

社長感謝状／個人 5人、法人 14社

金色有功章／個人 8人、法人 5社

銀色有功章／個人 11人、法人 24社



②全国有功会組織との連携

10月12日(木)、日赤紺綬・有功会会長協議会総会が、47年に一度の担当県として広島で行われ、全国の有功会組織の代表107名が参集しました。各ブロックから代表都道府県が取り組みを報告し、赤十字運動への理解促進を図りました。

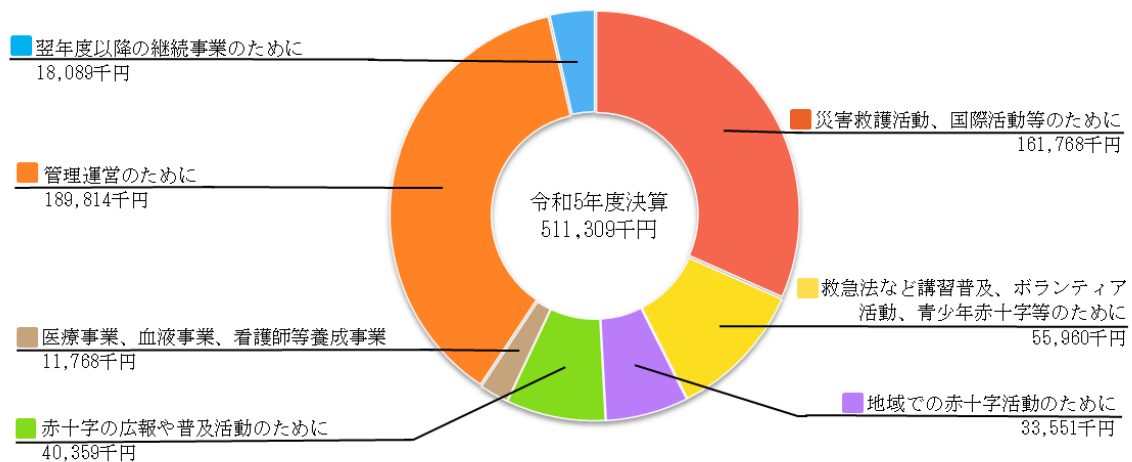


③会報の発行

会報「有功ひろしま」21号を発行し、活動報告とともに会員募集を行いました。

(単位：千円)

科 目	決算額
社資収入	319,539
補助金及び交付金収入	6,559
繰入金収入	59,923
資産収入	25,119
雑収入	28,773
前年度繰入金	71,396
歳 入 計	511,309
災害救護事業費	51,666
社会活動費	56,238
国際活動費	6,100
指定事業地方振興費	6,496
地区分区交付金支出	33,551
社業振興費	40,359
基盤整備交付金補助金支出	8,490
積立金支出	76,451
総務管理費	91,619
資産取得及び資産管理費	77,843
本社送納金支出	44,407
歳 出 計	493,220



参考資料 名簿

■日本赤十字社広島県支部役員等名簿

令和6年3月31日現在

支 部 長	湯 崎 英 彦	広 島 県 知 事				
副 支 部 長	山 根 健 嗣	広 島 県 副 知 事				
参 与	平 川 理 恵	広 島 県 教 育 長				
”	北 原 加 奈 子	広 島 県 健 康 福 祉 局 長				
”	斎 藤 一 博	広 島 県 健 康 福 祉 局 健 康 福 祉 総 務 課 長				
監 査 委 員	山 本 一 隆	広 島 県 社 会 福 祉 協 議 会 会 長				
”	井 林 孝 二	公 認 会 計 士				
地 区 選 出 評 議 員						
地 区 名	氏 名	役 職 名	地 区 名	氏 名	役 職 名	
広 島 市	地区本部	前 健 一	副 市 長	福 山 市	中 島 智 治	副 市 長
		松 嶋 博 孝	市健康福祉局長		赤 松 治 美	福山商工会議所副会頭
		山 田 豊 子	広島市地域女性団体連絡協議会会長	府 中 市	平 野 勝 与	副 市 長
	中 区	薬師地 直樹	区 長	三 次 市	堂 本 昌 二	副 市 長
	東 区	市岡 泰三	区 長	庄 原 市	大 原 直 樹	副 市 長
	南 区	西本 和弘	区 長	大 竹 市	太 田 勲 男	副 市 長
	西 区	南浦 詳仁	区 長	東 広 島 市	川 口 一 成	副 市 長
	安佐南区	植竹 良子	区 長	廿 日 市 市	村 上 雅 信	副 市 長
	安佐北区	萬ヶ原 伸二	区 長	安 芸 高 田 市	米 村 公 男	副 市 長
	安 芸 区	長光 信治	区 長	江 田 島 市	土 手 三 生	副 市 長
佐 伯 区	石井 源太	区 長	安 芸	吉 田 隆 行	坂 町 長	
呉 市	阿 原 亨	副 市 長	山 県	箕 野 博 司	北 広 島 町 長	
	佐 藤 光 子	市 赤 十 字 奉 仕 団 委 員 長	豊 田	谷 川 正 芳	大 崎 上 島 町 長	
竹 原 市	新 谷 昭 夫	副 市 長	世 羅	奥 田 正 和	世 羅 町 長	
三 原 市	新 地 弘 幸	副 市 長	神 石	入 江 嘉 則	神 石 高 原 町 長	
尾 道 市	澤 田 昌 文	副 市 長				

支 部 選 出 評 議 員		
中 本 隆 志	広 島 県 議 会 議 長	
松 村 誠	広 島 県 医 師 会 会 長	
宗 兼 邦 生	広 島 商 工 会 議 所 副 会 頭	
本 永 史 郎	広 島 県 社 会 福 祉 協 議 会 副 会 長	
竹 下 純 子	広 島 県 地 域 女 性 団 体 連 絡 協 議 会 副 会 長	
本 社 関 係		
理 事	松 村 誠	広 島 県 医 師 会 会 長
代 議 員	松 村 誠	広 島 県 医 師 会 会 長
代 議 員	山 田 豊 子	広 島 市 地 域 女 性 団 体 連 絡 協 議 会 会 長
代 議 員	佐 藤 光 子	呉 市 赤 十 字 奉 仕 団 委 員 長
代 議 員	中 島 智 治	福 山 市 副 市 長
代 議 員	米 村 公 男	安 芸 高 田 市 副 市 長
代 議 員	谷 川 正 芳	大 崎 上 島 町 長

■地域赤十字奉仕団名簿

令和6年3月31日現在

名称	結成年度	団員(人)
呉市赤十字奉仕団	昭和26年度	3,000
竹原市女性連絡協議会赤十字奉仕団	昭和33年度	940
広島市女性赤十字奉仕団	昭和35年度	6,000
坂町赤十字奉仕団	昭和63年度	55
神辺町赤十字奉仕団	平成元年度	39
江田島市赤十字奉仕団	平成元年度	244
安芸津町女性赤十字奉仕団	平成2年度	69
木江赤十字奉仕団	平成2年度	33
尾道市赤十字奉仕団	平成5年度	36
三原市赤十字奉仕団	平成5年度	535
東広島市赤十字奉仕団	平成5年度	16
三和町赤十字奉仕団	平成6年度	45
福山市赤十字奉仕団	平成9年度	27
庄原市赤十字奉仕団	平成12年度	59
尾道市瀬戸田町さくら赤十字奉仕団	平成17年度	15
世羅町赤十字奉仕団	平成20年度	31
海田町おもちゃの病院赤十字奉仕団	平成20年度	14
府中町防災研究会赤十字奉仕団	平成20年度	15
府中市赤十字奉仕団	平成22年度	20
はつかいちし災害救援ボランティアネットワーク赤十字	平成24年度	14
熊野町女性会赤十字奉仕団	平成26年度	22
合計	21団	11,229

■青年赤十字奉仕団名簿

令和6年3月31日現在

名称	結成年度	団員(人)
山陽女子短期大学赤十字ボランティアサークル	昭和62年度	45
世羅地区夢工房四季青年赤十字奉仕団	昭和62年度	11
広島県青年赤十字奉仕団	平成10年度	88
日本赤十字広島看護大学学生赤十字奉仕団	平成18年度	41
安田女子大学赤十字奉仕団	平成28年度	43
合計	5団	228

■特殊赤十字奉仕団名簿

令和6年3月31日現在

名称	結成年度	団員(人)
すみれ会赤十字奉仕団	昭和51年度	13
広島県安全赤十字奉仕団	昭和57年度	72
広島県アマチュア無線赤十字奉仕団	平成3年度	76
広島レスキューサポートバイク赤十字奉仕団	平成10年度	25
広島県青少年赤十字賛助奉仕団	平成14年度	28
健康・栄養赤十字奉仕団	令和元年度	28
広島県赤十字水上安全奉仕団	令和2年度	26
合計	7団	268

■広島県赤十字有功会役員名簿

令和6年3月31日現在

役員名	氏名	現職
会長	田村 興造	広島ガス株式会社 代表取締役会長
副会長	部谷 俊雄	株式会社ひろぎんホールディングス 代表取締役社長
	小田 宏史	株式会社もみじ銀行 頭取
	松本 和久	株式会社サタケ 代表取締役社長
常任委員	土肥 博雄	広島赤十字・原爆病院 名誉院長
	山根 以久子	株式会社サンポールホールディングス 取締役会長
	池田 浩直	鯉城タクシー株式会社 代表取締役社長
	中嶋 栄子	株式会社フカイ 代表取締役
監事	岡田 幹憲	松電産業株式会社 代表取締役社長
	小松 節子	株式会社メンテックワールド 代表取締役社長



〒730-0052 広島市中区千田町 2 丁目 5-64

TEL 082-241-8811 FAX 082-240-2741

■ ホームページ



<https://www.jrc.or.jp/chapter/hiroshima/>

■ X (旧 Twitter)



https://x.com/hiroshima_jrc/

■ Instagram



https://www.instagram.com/nisseki_hiroshima/

■ Facebook



<https://www.facebook.com/redcross.hiroshima/>